

群 教 セ	G10 - 01
	平27.257集
	道 徳

思いやりに視点を当てた、 道徳的価値の理解・自己理解を深める 指導の工夫

— 児童の思いを引き出す役割演技を通して —

特別研修員 綿貫 久美子

I 研究テーマ設定の理由

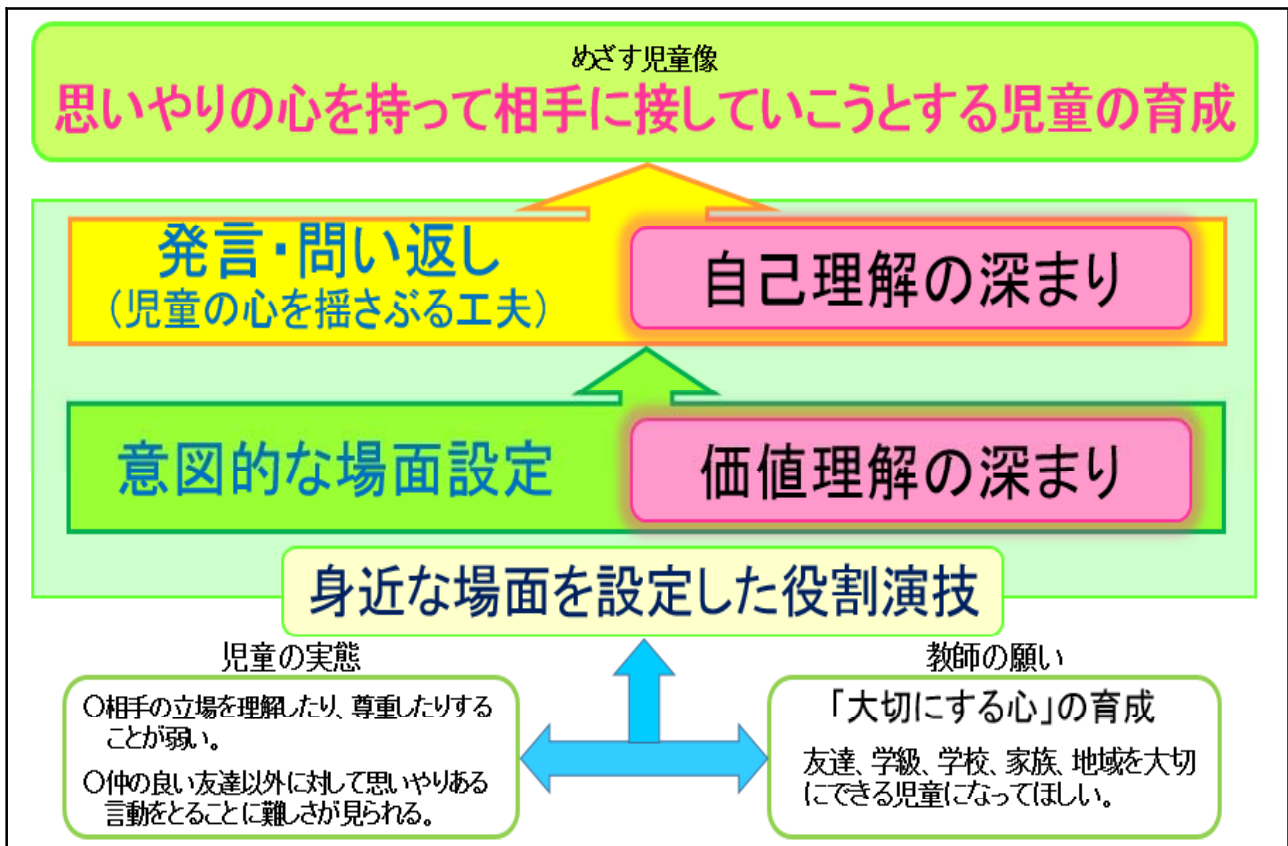
群馬県では、「道徳教育推進状況調査」や「全国学力・学習状況調査」の分析結果から、児童生徒に身に付けて欲しい心のあり方が明らかになり、「豊かな心」の育成に取り組んでいる。その中で、自分のよさの認識に課題が見られたことから、「向上する力」「やりぬく力」「大切にできる心」を、道徳の時間を中心として育成するよう求められている。

低学年の児童は、自己中心性が多分に残っており、他者の立場を理解したり、尊重したりすることが不十分で自分の欲求にしたがって行動することが多い。本学級の児童も、関わりの深い友達には思いやりのある言動がとれるが、それ以外の友達には、望ましい言動をとることが難しい。

そこで、道徳の授業において、児童にとって身近な場面を設定した役割演技と、演技の中で児童の思いを引き出す発言や問い返しを工夫することで、思いやりの心についての価値理解と自己理解を深めることができ、実生活での実践意欲を高められると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

実践1における研究上の手立て〈役割演技の活用〉

主題名 温かいやさしさ 資料名「くまくんのたからもの」

(1) 資料を通して理解した道徳的価値の理解を深めるための役割演技

- ・資料に書かれた台詞だけでなく、台詞に込められた思いを付け足して演技させることにより、価値理解を深めさせる。
- ・児童にとって身近な場面として、「遠足で1年生が水筒の中身をこぼしてしまい、困っている」場面を設定し、どう行動すべきかを役割演技で行い、自己理解を深めさせる。

(2) 役割演技の場面における、児童の心を揺さぶる発言の工夫

- ・演技の途中や終了後に、児童に「どうしてそのように思うのか」「どんな気持ちになったか」など、発言についての思いや考えを問うことで、更なる自己理解を促し、児童の考えを深めさせる。

実践1では、中心発問の場面を役割演技で行い、道徳的価値への理解を深めさせた。その後、身近な場面を設定した役割演技を行い、児童の思いや考えを引き出す発言を通して、自己理解を深めさせた。実生活でどのような言動をとることが望ましいのか、そして、今後どうしていくかを、児童に考えさせることはできた。しかし、望ましい言動をとるべき場面や立場にあっても、その通りにはなかなかできない「人間の心の弱さ」や「葛藤」については深く考えさせることができなかつた。これは、1時間の中に二つの役割演技を取り入れたことにより、考えを深める時間が十分確保できなかったためと考えた。そこで、実践2では、役割演技を1場面にしぼり、価値理解を深められるように改善した。また、教師が児童役となって役割演技に加わり、児童に心を揺さぶる発言や問い返しを行うことを通して、人間の心の弱い部分についても考えられるように改善し、自己理解を深めさせ、実生活での実践意欲を高められるようにした。

実践2における研究上の手立て〈役割演技の活用〉

主題名 あたたかい心 資料名「ぐみの木と小鳥」

(1) 児童にとって身近な場面を意図的に設定した役割演技

- ・資料で深めた道徳的価値をもとに、「一つだけ空いているブランコを、1年生と同時に見つけた。その時に、どうするか」という場面を役割演技で行い、価値理解を更に深める。

(2) 役割演技の場面における、児童の心を揺さぶる発言や問い返しの工夫

- ・学習支援員と共に教師が児童役となり、実際には望ましい行動がとりづらい状況を想定できるような発言や問い返しを行い、自己理解を深めさせることを通して実践意欲を高めさせる。

実践2では、身近な場面を設定した役割演技を行うことで、児童が様々な自分の考えや思いを表現し、価値理解を深めることができた。その後、教師による心を揺さぶる発言や問い返しにより、人間の心の弱い部分を認めることを通して、自己理解を深め、よりよい行動をとろうとする様子が見られた。

III 研究のまとめ

1 成果

- 低学年の児童にとって、身近な場面を設定した役割演技は、自分事として捉えることを容易にし、ねらいとする道徳的価値への理解を深めることができた。
- 児童の心を揺さぶる発言や問い返しは、人間の心の弱さについて認めながらも、思いやりを持って相手に接していこうとする気持ちを高めることに有効であった。

2 課題

- 教師が発言や問い返しをしながら、児童同士がやりとりする場面を設定することで、望ましい行動についてより具体的に考えられると思われる。
- 年齢や立場の異なる人々との関わり方について考えられる発言や問い返しを工夫することで、多様な人々との関わりの中でも思いやりある行動をとろうとする実践意欲を高められると考える。

<授業実践>

実践 1

- 1 主題名 温かいやさしさ 内容項目 2 - (2) 思いやり、親切 (第2学年・1学期)
資料名 「くまくんのたからもの」東京書籍

2 主題及び本時について

実践1では、「温かいやさしさ」を主題とし、「幼い人や友達に温かい心で接し、思いやりの心を持って親切にしようとする心情を養うこと」をねらいとした。

本資料は、自分の大切なものと引きかえに、ねずみの子を助けるくまくんについての読み物資料である。新しいかばんの中を宝物でいっぱいにしたくまくんが、穴に落ちたねずみの子を見付ける。迷いながらもくまくんは、自分の集めた宝物を捨て、穴に落ちたねずみの子を助ける。助けたねずみが一つだけ持ち帰った宝物に、親切にすることの大切さを感じるという内容である。くまくんの気持ちに共感することで、思いやりの心で相手に接することのすばらしさと、その行為のもたらす充実感をつかむことができるようにした。

3 授業の実際

導入で、「自分にとっての宝物は、何か」を発表させ、とても大切なものであることを押さえた。その後、ペープサートを用いて資料の内容を把握させた。くまにとっての宝物である「どんぐり」を、迷った末に思い切って捨てる場面に共感できるように、カバンやどんぐり等の小道具を用意し、教師がくまになりきって演じた。

役割演技は、中心発問の部分で行った。児童に、くまくんは「どうして一つでも特別な宝物だ」と言ったのか、その理由やくまくんの思いをワークシート(図1)に書かせた。記入に時間がかかる児童には、短く一言書けば良いことを指示した。その後、ペアで役割交代をしながら演技した後、全体で交流した。交流の際には、お面を活用した(図2)。全体での交流は、ペアでの交流の様子から、ねらいとする道徳的価値に結び付く考えが出ていたペアに演技させた(表1)。



図1 理由を付け加えたワークシート



図2 全体交流での役割演技の様子

表1 実際のやりとりの様子(太ゴシックは、ねらいとする価値に結び付く児童の考え)

ペア1	ペア2
S1 : 1 こだけになっちゃったけど・・・。 S2 : 一つでもこれは特別な宝物なんだ。だって、 ねずみくんがひろってくれたあったかいどんぐりだもん。	S3 : 1 こだけになっちゃったけど・・・。 S4 : 一つでもこれは特別な宝物なんだ。だって、 ねずみくんが1こ持ってきてくれたから。ぼくはこのぴかぴかのどんぐりをだいにするね。

ペア1のS2が「あったかいどんぐりだもん」と言った際に、教師から「あったかいは、どうしてかな」と発問した。S2は、「ねずみくんがずっとにぎっていたから」と答えた。ペア2のS4が、「大事にするね」と言った際には、「どうして大事にしようと思ったのかな」と発問した。S4は、「ねずみくんが拾ってきてくれたから」と答えた。

それぞれのペアの演技後に、本時のねらいとする道徳的価値に近付くために、「今、くまくんはどんな気持ちかな」と質問をした。ペア1のS2は、「1こだけになったけど、うれしい気持ち」と答えた。ペア2のS4は、「1こだけになったけど、ねずみくんを助けられて良かったという気持ち」と答えた。この後、親切にすると自分もうれしい気持ち、温かい気持ちになることを押さえてから、展開後段の役割演技に移った。

展開後段では、遠足に行った際、1年生の子が水筒の中身をこぼして困っている場面を取り上げ、役割演技を行った。実際の場면을想起しやすくするため、場面絵を掲示し、演技をする際には、体育帽子をかぶらせ、各学年の役になりきって演技させた(表2、図3)。

表2 実際のやりとりの様子(太ゴシックは2年生役)

S1 : 水筒の中身がこぼれちゃったよー。
S2 : どうしたの?大丈夫?
S3 : 水筒の中身がこぼれちゃったよー。
S4 : 大丈夫?私のを少しあげるよ。
S3 : ありがとう。
S5 : 水筒の中身がこぼれちゃったよー。
S6 : 大丈夫だから、泣かないで。
S5 : うん。



図3 遠足場面の役割演技の様子

演技後に、2年生役をした児童に、「ありがとう」や「うん」と言われた時、どんな気持ちがしたかを問うと、「うれしかった」と多くの児童が答えた。今後、どう1年生に関わっていくかを尋ねた際も、「やさしくしてあげる」「困っていたら、助けてあげる」といった意見が多く出ていた。

4 考察

- 資料による役割演技の場面では、お面やカバン、どんぐり等の小道具を活用して児童に演技をさせたことで、児童自身が思いや考えを表現しやすくなった。その発言から、ねらいとする道徳的価値について理解を深めている様子が見られた。
- 実際に実施した1年生との「遠足」の場면을役割演技として設定したことで、自分にも起こりうる場面として捉えやすくなり、価値理解を更に深め、思いやりある行動をとろうとする意欲が見られた。
- 役割演技の終了後に、教師が補助発問を行って、児童の考えを引き出したり補ったりすることで、日頃、思いや考えを表現するのが苦手な児童が発言でき、多様な意見を交流することができた。
- 中心発問での役割演技の際、児童の思いを引き出す発問として「どうしてあったかいか」「どうして大事にしようと思ったのか」を尋ねたが、ねずみの行動だけでなくねずみの気持ちについても考えられるような発問を付け加えると、ねずみの思いに気付き、価値理解を深め、思いやりを持って接していこうとする意欲が高められたと考える。
- 役割演技に、意図的に葛藤場面を設定していくことで、児童が「今までの自分」を振り返ったり、「人間の弱い部分」について考えたりし、より自己理解を深めることができるようになって考えられる。

実践 2

- 1 主題名 あたたかい心 内容項目 2 - (2) 思いやり、親切 (第2学年・2学期)
資料名 「ぐみの木と小鳥」学研

2 主題及び本時について

実践2では、「あたたかい心」を主題とし、「身近に困っている人がいたら、思いやりの心を持って親切にしようとする心情を養うこと」をねらいとした。

本資料は、激しい嵐の中を、病気のりすのために、ぐみの実を運ぶ小鳥についての読み物資料である。ある日、真っ赤に色付いたぐみの実をおいしそうに食べていた小鳥が、ぐみの木に、りすの家へぐみの実を届けてほしいと頼まれた。病気で寝ているりすを見た小鳥は、ぐみの木が心配していることを伝えるとともに、次の日もぐみの実を持って訪れてりすを励ます。激しい嵐の日、小鳥は何度かためらったが、りすの身を案じて、力を振りしぼって嵐の中を飛び続け、やっとの思いでりすのもとへぐみの実を運んだ。森の植物や動物の間で交わされる親切な行為、お互いに他を思いやる美しい気持ちに触れ、その行為のもたらす充実感をつかむことができるようにした。

3 授業の実際

導入では、「今までに、困っている1年生や友達にやさしくしたことがあるかどうか」を尋ね、実際に行ったことのある児童の人数を板書しておいた。

資料による価値理解は、場面絵を活用して、発問は中心発問に絞って考えさせた。資料で価値理解を深めた後、役割演技を行った。身近な場面として、「お昼休みに、空いているブランコを1年生と同時に見付けた。その後、どうするか」といった場面を設定した。ブランコを借りられるかどうかで、不安そうな1年生に対してどのように言うかを、ワークシート(図4)に書かせた。ワークシートには、「いいよ。貸してあげる」「いいよ。後で貸してね」「順番で、先に乗っていいよ」の3種類の考えが出ていた。ワークシートに記入後、ペアで意見交流を行った。

ペアでの意見交流後、全体での交流場面で3名の児童と役割演技を行った。その際、ワークシートに書かれていない児童の心を揺さぶる発言や問い返しを教師が付け足し、児童の思いや考えを引き出した。1年生役と揺さぶりをかける役の2役が必要なため、本時は、T2(1年生役)として学習支援員に参加してもらい、演技を行った。役割演技のやりとりについては、以下のとおりである(表3)。



図4 ブランコの場面のワークシート記入例

表3 実際のやりとりの様子(太ゴシックは、心を揺さぶる発言・問い返し)

児童1	児童2	児童3
T1 : ブランコ乗ろう! あっ、空いてる。	T1 : ブランコ乗ろう! あっ、空いてる。	T1 : ブランコ乗ろう! あっ、空いてる。
T2 : 私もブランコ乗りたいな。貸して。	T2 : 私もブランコ乗りたいな。貸して。	T2 : 私もブランコ乗りたいな。貸して。
T1 : どうする?	T1 : どうする?	T1 : どうする?
S1 : いいよ。	S2 : いいよ。後で貸してね。	S3 : 先にいいよ。
T1 : えーっ! 私たちの方がちょっとだけ早かったよ。	T1 : それじゃ、乗る時間が短くなっちゃうよ。	T1 : じゃあ、いつも1年生に貸さなきゃいけないの?
S1 : ……。(答えに詰まる。)	S2 : じゃあ、順番に乗ろう!	S3 : うーん。乗っていいよ。次の時は貸してね。
T1 : みんなだったら、なんて	先に乗っていいよ。	

言う？	T1 : いいの？どうして？	T1 : いいの？どうして？
S4 : 1年生だから、貸してあげる。	S2 : 1年生だから。	S3 : 1年生だから。
T1 : そうなんだ。S4くんと同じように言う人！ (多くの児童が挙手。)	T1 : そうなんだ。 T2 : ありがとう。 S2 : どういたしまして。	T1 : そうなんだ。 T2 : ありがとう。 S3 : どういたしまして。

S1とのやりとりでは、揺さぶりをかける発言をした際、児童が言葉に詰まってしまった(図5)。その後、学級全体に、「みんなだったら、なんて言いますか」と問いかけたところ、学級全体が静まりかえり、一人一人がどうしたらよいか考えている様子が見られた。その後、自分だったらこう言うだろうというつぶやきが多く聞こえてきた。

演技終了後に、代表児童3名に「やってみてどんな気持ちでしたか」聞いたところ、「ありがとう、と言われて、うれしかった」と3名とも答えた。他の児童にも、「見ていて、どんな気持ちになったか」聞いたところ、「見ていてもうれしくなった」や「いい気持ち」といった感想を持った児童が多かった。

終わりに、生活科でおもちゃランドを開いたとき、1年生にどのように接していくか聞いたところ、「優しくしてあげたい」「声をかけてあげたい」といった意見が出ていた。



図5 心を揺さぶる場面

4 考察

- 児童が興味・関心を持っている事物、学校生活の様子などから実態を捉え、ねらいとする道徳的価値と結び付く場面を考えた。その結果、児童にとって身近な「ブランコの取り合い」という場面を役割演技として設定したことで、自分にも起こりうる場面として捉えやすくなり、児童が思いや考えを表現しやすくなった。資料から理解した道徳的価値を役割演技の場面で深めることができた。
- 「自分達の方が早かった」「2年生は、いつも貸さなければいけないのか」「乗る時間が短くなって、損だ」というような揺さぶりをかける発言や問い返しを行ったことで、児童が自己を振り返りながら望ましい言動について考えた発言を引き出すことができ、自己理解を深めることができた。同時にこうしていきたいという実践意欲を持たせることにつながったと考える。
- 役割演技の中で、学習支援員にも児童役として参加してもらった。このことにより、人間の弱い部分について考えさせる発言・問い返しが効果的に行えた。設定場面に応じて、ティームティーチングでの役割演技も効果的であると考えられる。
- 役割演技を通して、ねらいとする道徳的価値の理解と自己理解を深めたことにより、授業後に生活科で行ったおもちゃランドでは、1年生に優しく接することができた児童が多くいた。順番を教えてあげたり、うまくいかない1年生にやり方を教えてあげたりするなど意欲的に取り組み、よく面倒を見ていた。おもちゃランドの授業後での振り返りの作文の記述からも、道徳の授業が活かされている様子が伺えた。
- 教師が代表児童とやりとりしている様子を見ながら、他の児童も自分が代表児童になったかのようにつぶやいている様子が見られた。教師と児童の場面だけでなく、児童同士がやりとりする場面を設定すると、多様な考えを交流することができたと思われる。
- 「1年生だから貸す」という考えが多くを占めた。「では、1年生にしか貸さないのか」といった補助発問を工夫することで、どのような相手でも親切にすることが大切であることを児童の発言から引き出せ、価値理解を一層深めることにつながったと考えられる。